

半田市新水道ビジョン・経営戦略 概要版

第1章 策定の趣旨と位置付け

【策定の背景】

- 人口減少に伴う給水収益の減少、老朽化が進む施設の更新費用の増大、大規模地震への備えの重要性の高まりなど、水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。将来に渡って安定的に事業を継続するため、今後の目指すべき方向性を示し、その実現を目指します。

【計画の期間】

令和3年度～令和12年度（10年間）

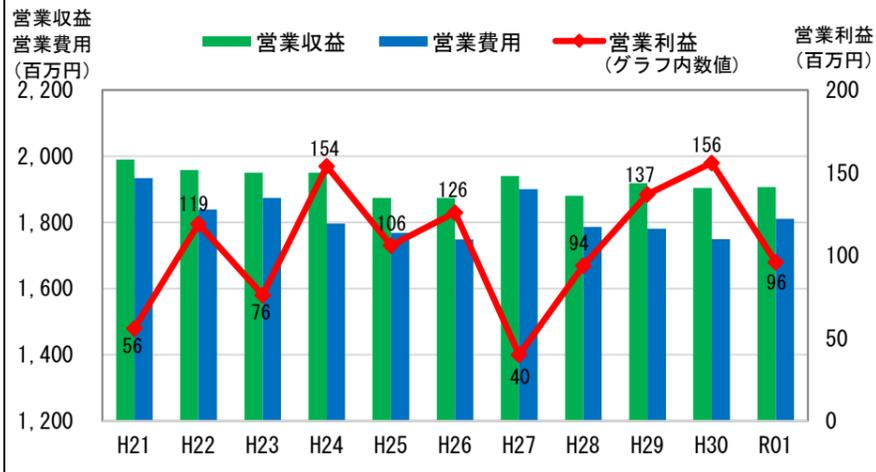
第2章 水道事業の概要

【水道事業の沿革・水源】

- 昭和5年に通水を開始し、90年を経過しています。
- 長良川を水源とした浄水を県営水道から受水しています。

【経営の状況】

- 業務の効率化や民間委託の活用などにより健全な事業経営に努め、近年の営業利益は概ね1億円を確保しています。



第3章 水道事業の現状と課題

【現状の整理】

- 非耐震施設、管渠の耐震化の推進
- 将来の水需要減少、事業継続を見込んだ料金設定
- 新たなお客様ニーズの反映、新しい技術の導入

【今後の課題】

- 直結給水の推進
- 被災時の水源確保、対策マニュアル、対応訓練
- 施設、管路の耐震化
- 計画的な施設の維持管理、改築、更新
- 事業、経営の効率化
- 新しい技術の導入

第4章 基本理念と施策目標

【基本理念】

- これまでに実施した事業により、前ビジョンで設定した多くの課題について目標を実現しています。本ビジョンでは引続き、現状を踏まえた上で課題を整理し、今後の水道事業のあり方について、以下の基本理念を定めます。

安心・安全な水をいつでも、どこでも、いつまでも

- 新たな水道ビジョンでは、この基本理念を実現するため、以下の3つの視点で目標を定め事業の運営を行っていきます。

【施策目標】

- 《安全》：安全な水の供給
- 《強靱》：災害に強くしなやかな水道の構築
- 《持続》：持続可能な水道事業の実現

第5章 具体的な施策内容

施策目標	具体的な施策内容
【安全】 安全な水の供給	直結給水方式の推進
	受水槽管理者への指導
	安定した水源の確保
	感染症の予防と対策
	水源域の保全
【強靱】 災害に強くしなやかな水道の構築	配水池の耐震化
	基幹管路の耐震化
	重要な給水施設への管路の耐震化
	被災時配水ルートの早期確保
	災害時の対応訓練
	緊急連絡管の運用訓練の充実
【持続】 持続可能な水道事業の実現	資産の適切な管理の推進
	水道施設の計画的な改築・更新
	有収率の向上
	増圧配水区域の縮小
	民間活力の活用
	お客さまサービスの向上
	適正な水道料金の設定
	収納率の向上
	資金の効率的運用
	遊休施設の有効活用
	広域的な連携の推進
	技術の継承
	指定給水装置工事事業者の技能向上
	スマートメーター導入の検討
効率的な事務作業手法導入の推進	
再生可能エネルギーの有効活用	
水道事業に関するPR活動の実施	

第6章 投資・財政計画

【経営の目標】

健全な経営を継続していくため、今後の事業及び経営の目標を定めました。

- ①水道施設の計画的な改築・更新
- ②純利益の確保
- ③内部留保資金残高の確保

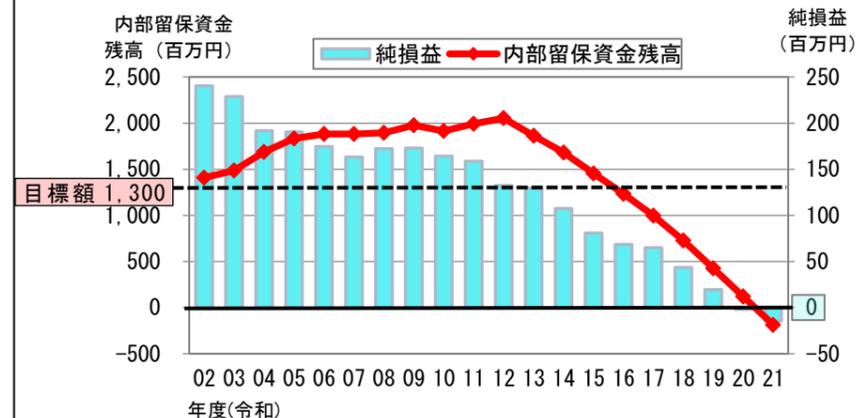
【投資計画】

- 大規模地震への対応（耐震化事業）
- 水道施設の計画的な改築・更新（老朽化対策事業）

【財政計画・シミュレーション】

今後実施する事業の年間事業費の平準化のため、企業債を新規に借り入れるとして、支出、収入の推移をシミュレーションしたところ、令和16年度に内部留保資金残高が目標額を下回り、令和21年度にはマイナスになります。

また、令和20年度に純利益が確保できなくなるという結果になりました。



【考察】

水道使用量の減少に伴う収益の減少が予測されることから、現行の料金体系では経営の目標水準は達成できない見込みとなります。

今後は、事業の効率化などによる経費の削減を進めつつ、計画の定期的な見直しに合わせて、水道料金の改定時期、改定幅などについて検討を進める必要があります。

第7章 フォローアップ

【計画の推進にむけて】

PDCA サイクルに基づいたフォローアップを定期的に行います。また、進捗等について毎年確認、公表します。

